

# ストリートホワイエ図鑑

劇場都市における全天候型ホワイエとして

本提案は劇場都市・池袋の中心に「ストリートホワイエ」を挿入し、芸術文化の醸成・発信と共に経済の活性化を目指すものである。近年、池袋では国際アートカルチャー都市構想が掲げられ、その一環として2020年までに8つの劇場空間を有する複合施設「ハレザ」が、また4つの公園が劇場やイベント会場として整備される予定であり、池袋全体が芸術文化を纏った街へと変わりつつある。劇場都市としてハイカルチャーからサブカルチャーまで多様な芸術文化が溢れるであろう池袋ではあるが、その空間構成に注視すると、アプリケーションである劇場拠点を回遊する構図が見て取れ、人々の行動が目的的になされる事が予想される。そこで本提案では、ちょうど回遊動線の中心に位置する首都高速高架下のストリートに着目し、「劇場で開催される企画やイベントと連動したホワイエ機能」をそこに挿入する事で、劇場空間の街への拡張を試みる。劇場から街へ、街から劇場へと向かう人々の流れは、企画主催側と参加側のインタラクティブな関係を広げる事になるであろう。劇場都市・文化都市として池袋の街全体が芸術文化でしみ、池袋を訪れる全ての方がもっと自由で大らかに池袋の芸術文化に触れて楽しんでくれる事を望む。

## 対象エリアの現状分析



左図の①～⑥がメインの劇場空間として位置付けられ、LRT整備により回遊的に繋がる。池袋駅とのピストン移動や、①～⑥の拠点間移動に加えて、来場者が街の中へと踏み込む動機付けが必要である。本提案の計画範囲は、回遊動線の中心に位置する

- ①: 東京芸術劇場 ②: ハレザ ③: 池袋西口公園
- ④: 中池袋公園 ⑤: 南池袋公園 ⑥: 造幣局地区防災公園 (仮称)

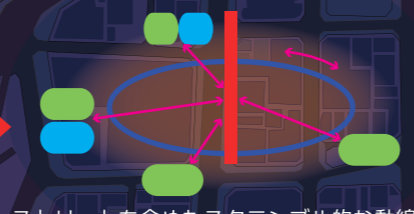
--- 池袋 LRT 構想    ■ 本提案の計画範囲

## ダイアグラム



劇場や駅を結ぶ回遊動線

池袋 LTR 構想で見られる回遊動線のセンターに位置する首都高速高架下の通りを「ストリートホワイエ」と位置付ける。劇場との運営の連携を図ることで劇場と街が有機的に繋がり、文化的、経済的な発展が期待できる



ストリートを含めたスクランブル的な動線

仮設 WC 計画エリア

ストリートホワイエを構成するテント群。建物所有者による管理のため、基本的に建物の間口寸法で構成される。いずれは本提案の計画範囲を超え、建物物間を使って広く分布する事を期待する

## ストリートホワイエの実施に向けて利用するストックの数々

・首都高速道路の構造体と周辺建物

・パーキングメーターエリア (時間制限駐車区間)

・鉄骨のピース

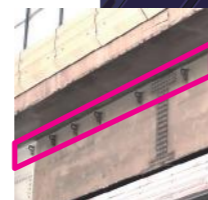
・ガードレール



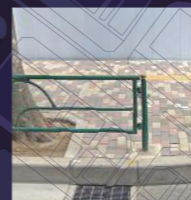
近距離に迫る堅牢な高架構造体と周辺建物。両者の関係は距離の距離や、高さを変えながら独特の景色を作り上げている



計画範囲の道路全域に存在する。駐車を前提とした道路空間の為、交通機能を損ねることなく利用する事が可能である

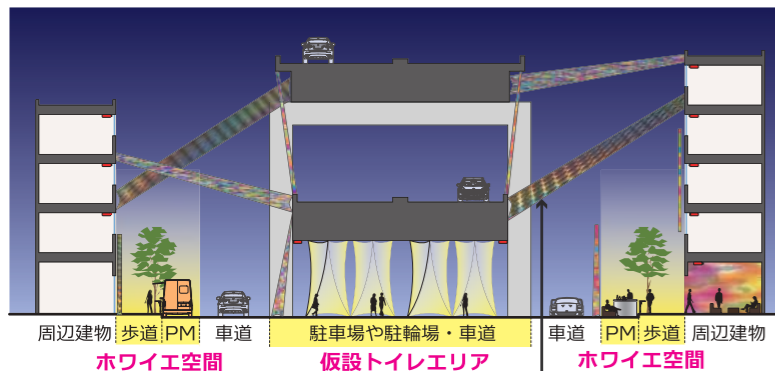


高架構造体の側面、ほぼ全てに設置が認められた

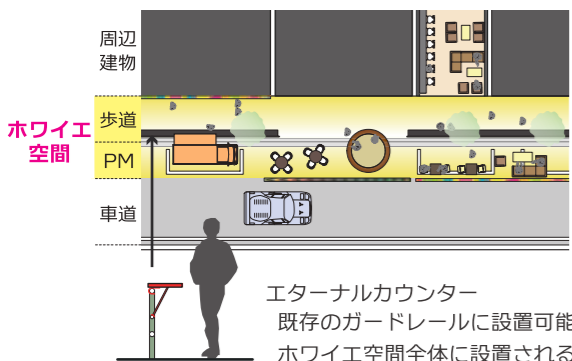


歩道の切下げ部以外、ほぼ全域に存在する

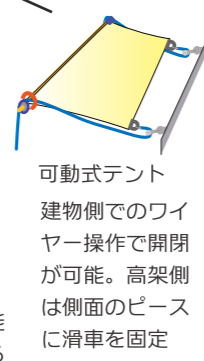
## ストリートホワイエ



周辺建物 | 歩道 | PM | 車道 | 駐車場や駐輪場 | 車道 | 車道 | PM | 歩道 | 周辺建物  
**ホワイエ空間**      **仮設トイレエリア**      **ホワイエ空間**



エターナルカウンター 既存のガードレールに設置可能 ホワイエ空間全体に設置される



可動式テント 建物側でのワイヤー操作で開閉が可能。高架側は側面のピースに滑車を固定

高架構造体と周辺建物の間にワイヤーを巡らせ、可動式テントを張り、プロジェクター投影をする事で、テンポラリーな性格の全天候型ホワイエ空間を生み出す。これらは期間限定で開催内容が更新される劇場の性格に合わせた形態である。歩道や車道の交通機能を確保するため、滞留空間はPM (パーキングメーターエリア) を利用する。そこでは移動販売車や劇場と連動したブースなどの提供が想定される。高架下の駐車場・駐輪場は、災害時にも利用可能なマンホールトイレを設置し、深夜も使える仮設トイレとして利用する。また周辺建物は業務形態によっては、ストリートホワイエと一体的な運営も期待される。

## 主体と経済

このような提案は、誰がやるのか、お金はどうするのか大きな問題となる。現実的な主体としてはNPO ないし株式会社を設立、もしくは公募によって選定された事業者によって、各方面の合意形成と実際の運営される。資金源は、劇場における開催側の運営・広告費に加え、ホワイエ空間に出店する移動販売車やブース出店者の場所代が見込まれる。また劇場の非公式エリアを設け、開催企画に準ずる表現者たちの場として広く提供する事で収支計画を立てることも可能と思われる。可動式テントの設置・管理費やプロジェクター投影の電気代は周辺建物所有者が負担するが、ストリートホワイエの実施の度に利益を乗せた金額がバックされる方式が考えられる。



メイン会場の公園から飛び出した「ストリートパフォーマー」の例



ハレザで開催される映画祭への来場客。ストリートが社交の場として使われる例

## 今後の展望

池袋は過去に多くの芸術家が育まれ、様々なカルチャーが生み出されてきた。そのような歴史こそが池袋の文化であり、将来も引き継がれていく事であろう。首都高速道路の下から始まるストリートホワイエが新たな文化のムーブメントを支え、池袋全体が芸術文化を纏った世界的な文化都市へと発展することを願っている。



公園で開催される「ストリートアートイベント」からの派生例



「アニメイトガールズフェスティバル」への参加者を迎える空間の例